

2020年5月20日付 韓国環境部プレスリリース

ASF 対策、イノシシ捕獲戦略の多様化

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=10&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1372390&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

-季節変化にともなう捕獲条件変化対応-

環境部(長官ジョミョンレ)は、草木が茂り、気温が上昇するなど、イノシシ捕獲条件の変化に対応した ASF 拡散遮断のため、地方自治体に野生イノシシ捕獲指針を 5 月 18 日に通知したと明らかにした。

環境部は、国内で野生イノシシ ASF が発生した後、ウイルス拡散を遮断するために強力なイノシシ捕獲を推進し、ASF が発生した 7 市郡内のイノシシ個体数を、2019 年 10 月比で 45.7%減らした。

だが、今年 1 月から 4 月までの発生地域 7 市郡の銃器捕獲実績が 1 月 611 頭、2 月 614 頭、3 月 518 頭、4 月 269 頭と大幅に減っており、季節変化にともなう捕獲条件変化で捕獲実績が減少することが明らかになった。

捕獲実績の減少は、春から秋にかけ、営農を兼業する猟師の捕獲活動参加が減り、草木の生長、降雨および気温上昇などにより、猟犬の使用が難しくなるなど銃器捕獲効率が低下することが要因となっていると推測される。

環境部はこのような季節および捕獲条件の変化によるイノシシ捕獲実績減少に対応し、イノシシ捕獲戦略を多角化する計画を立てている。

まずイノシシ ASF 発生地域 7 市郡に捕獲檻/罠の設置を拡大している。

最近 ASF が発生した 7 個の市郡で捕獲檻/罠配置を増やし、餌付けや巡回査察など管理を強化し、捕獲実績が 2020 年 1 月 95 頭、2 月 107 頭、3 月 190 頭、4 月 218 頭で大きく増加している。

環境部は、ASF が発生した市郡に捕獲檻/罠配置を拡大するために国費 10 億ウォン (約 8758 万 7904 円) を支援し、該当地方自治体でも地方費 10 億ウォンを投じる一方、捕獲

檻/罾の専門担当人員を配置するようにするなど、捕獲檻/罾の運営・管理を強化して捕獲効果を高める計画である。

捕獲檻/罾の他、イノシシを一度に捉えることができる捕獲帳の設置も拡大する計画である。国立環境科学院が漣川郡（ヨンチョングン）の4地点に試験運営している捕獲帳を100個の規模に拡大し、他の市郡の設置も増やす。

銃器捕獲の場合、発生地域では銃器捕獲によるイノシシの長距離拡散リスクを避けるために銃器捕獲を最小化するが、民家・農耕地周辺にイノシシが出没するなど被害の申告があった際には、猟犬を使わないという条件での銃器捕獲を許可する。

ASFの拡散リスクが少ない広域フェンス南地域では、京畿道（キョンギド）、江原道（カンウォンド）および該当市郡と協力し、集中的な銃器捕獲を通じてイノシシ個体数を速かに除去する計画である。

※広域フェンス南集中捕獲地域に京畿道：楊州（ヤンジュ）・東豆川（トンドウチョン）・抱川（ポチョン）・加平（カピョン）・南揚州（ナムヤンジュ） 273人、江原道：高城（コソン）・麟蹄（インジェ）・春川（チュンチョン） 110人捕獲活動実施中

環境部はASF拡散を遮断し、早期に終息できるよう、地方自治体など関係機関と協力して野生イノシシ捕獲を持続的に推進する計画である。

野生イノシシ駆除状況 (2020年4月末時点)

区分	2019年		2020年 1月～4月	備考 2019.10.15-2020.4
	1.1～10.14	10.15～12.31		
計	51,462	49,461	41,654	91,115
ソウル特別市	75	96	41	137
釜山(プサン)広域市	160	223	117	340
大邱(テグ)広域市	284	139	161	300
仁川(インチョン)広域市	1	0	0	0
大田(テジョン)広域市	234	134	286	420
光州(クァンジュ)広域市	169	7	21	28
蔚山(ウルサン)広域市	354	455	289	744
世宗(セジョン)特別市	300	82	157	239
京畿道(キョンギド)	6,086	6,437	6,037	12,474
江原道(カンウォンド)	11,747	12,120	10,935	23,055
忠清北道 (チュンチョンブクト)	7,313	7,157	4,528	11,685
忠清南道 (チュンチョンナムド)	2,364	2,121	2,616	4,737
全羅北道 (チョルラブクト)	2,651	1,865	2,840	4,705
全羅南道 (チョルラナムド)	4,087	1,045	1,542	2,587
慶尚北道 (キョンサンブクト)	10,232	12,615	8,146	20,761
慶尚南道 (キョンサンナムド)	5,204	4,918	3,919	8,837
済州(チェジュ) 特別自治道	201	47	19	66

2019.1.1-2020.4: 計 14万 2577 頭

捕獲檻、捕獲罾および捕獲帳の概要

□捕獲檻（左）および捕獲罾（右）



○共通：イノシシの主要な移動通路に設置して捕獲する器具。捕獲行為に起因するイノシシの移動を誘発しないが、常に維持・管理が必要である。

○捕獲檻：落下式または連続流入式入口があるボックス形の装置で、内部に餌を置き、イノシシを誘い、捕獲する。

- 長所：1度に多数捕獲可能（連続流入式）、破損・紛失リスク低
- 短所：運搬・設置しにくい（車両運搬・2人以上必要）、車がアクセスできるエリア付近にのみ設置可能。

○捕獲罾：地中に埋め、餌につられたイノシシが踏むとスプリング装置などが作動し、イノシシを捕獲する装置。

- 長所：1人で約20個の運搬が可能である。運搬・設置が容易で、車両のアクセスが不可能なエリアにも設置することができる。
- 短所：捕獲檻に比べ紛失・破損する可能性が高い。

□捕獲帳

遠隔操作式捕獲帳の設置（例）



- 形態：四方が開放された状態で、空中の網を遠隔操作で落下させ捕獲する。
- 長所：ASF 拡散を誘発するリスクがなく、一度に大規模のイノシシの群れを捕獲可能。
- 短所：大きさにより、設置位置が制限される。

以上